

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902363		
法人名	有限会社 スマイルプラン		
事業所名	グループホーム スマイルプラン		
所在地	北海道旭川市永山11条2丁目2番2号		
自己評価作成日	平成30年1月31日	評価結果市町村受理日	平成30年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&JigyosyoCd=0172902363-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 マルシエ研究所
所在地	札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	平成30年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

菜園での野菜作りや、散歩や買い物など外に出る機会を多く持っています。個々の出来る能力を生かした役割を持ち、張りや楽しみのある暮らしが出来る様選択出来る機会を設けています。

ユニット間の交流も常に持ち、ホール全体が笑顔でひとりひとりの個性を尊重するような支援に努めています。季節にあった装飾を利用者と一緒に作ったり、季節感が味わえる様に工夫しています。

職員全体でより良いサービスを提供出来る様に、研修参加やホーム内での研修を充実させています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームスマイルプランは、事業所の理念の他に、3カ月ごとに「入居者目標」と「職員目標」を掲げ、利用者のよりよい生活の実現のために日々取り組んでいます。入居前からの趣味や習慣を継続し、利用者が大切にしてきた知人などとのつながりが維持できるように支援しています。認知症になっても、その人らしい暮らしを続けるために利用者としてできるだけ会話するようにしています。職員は利用者の言葉を逐語録で記録し、気持ちや希望を丁寧に検討しています。事業所では、一人ひとりの利用者を輝かせたいという思いを家族と一緒に実現できるよう、家族の意向の傾聴にも力を入れています。家族からの提案に、どのように応えていくか職員を交え検討し、運営にも反映しています。また、職員の定着が介護力の強化や利用者の安心へつながるとし、働きやすい職場環境の整備や研修にも力を入れています。外部研修にも複数職員が参加できるようにしています。職員が学びたい分野や、介護技術の向上、実務者研修費用の補助なども行っています。平屋建て2ユニットの事業所で、お互いのユニットの様子がわかる作りになっているため、ユニット間の利用者の行き来や職員の協力もスムーズに行われています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○ 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に支えられ、その人らしい生活が送れる」「声なき声に耳を傾け、寄り添い共に生きる」を理念とし、ミーティング等で職員と共有し実践している。	理念を掲示し、会議で理念に沿ったケアについて周知しています。また、3カ月ごとに職員が目標を設定し、地域住民との交流を楽しみ、利用者が地域の中で、その人らしく暮らしていけるように努めています。また、今後は理念の見直しも検討しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者と一緒に町内会の夏祭りに出店したり、散歩や買い物に行き地域住民と交流している。また、月1回の地域交流のカフェにも参加している。	町内の祭りに出店し、利用者が畑で収穫した野菜やゲームの景品を参加者に手渡すなど、交流を行っています。地域の高齢化が進んでいますが、町内会から毎年の出店を楽しみにしている声が届くなど、地域に根差しています。	事業所がある地区は、今後道路の拡張などのため、住民の移転が予定されています。それまで培ってきたつながりと共に、新しい住民等との交流を行っていけるよう、地域への発信等を継続していくことが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症サポーター養成講座」の開催の手伝いや、地域のSOSネットワークの参加協力で認知症の理解や支援の方法を活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催している運営推進会議で、日々の報告やご意見を伺う機会を持っている。議事録は家族に送付している。	家族や地域住民の参加もあり、会議では事業所からの一方的な報告だけでなく、意見や要望も検討されています。行事や研修の様子を写真で紹介するなど、意見を引き出す工夫をしています。運営推進会議の議事録は家族に配布しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者が出席、2ヶ月毎に地域包括主催の会議にも参加することで定期的に情報交換や、相談や報告を行っている。	運営推進会議や地域包括主催の会議を通じて、行政の担当者と定期的に情報の共有を図っています。指導監査課に提出書類について相談に行くなど、適切な運営ができるよう取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会を行ったり会議でも話し合い、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。防犯目的で施錠は行っているが、気軽に出入りできる様に努めている。	年1回、虐待防止についての研修会を行い、その中で身体拘束をしないケアなどについて学んでいます。夜勤担当者も参加し、精神的な抑制について、グループワークを行うなど、不適切なケアの予防を含め、よりよい介護の理解を深め、実践へとつなげています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加の他、ホーム内でも研修を行っている。日頃から利用者の尊厳を大切にしようの心がけ、虐待及び不適切なケアが行われない様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修会に参加し制度を学んでいる。必要に応じて制度に関わる情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に説明し、不安や疑問がないか確認しながら理解、納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時に何でも言ってもらえるような雰囲気作り心がけおり、その都度意見や要望等を確認している。	毎月事業所から書面で家族に利用者の状況を伝え、事業所への来訪を促しています。家族からの言葉に傾聴し、利用者の状況や、事業所の考え方を伝え、共に利用者を支えていけるよう、家族との信頼関係を築く努力をしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度の自己評価表を利用したり、普段の会話やミーティング等で意見や要望を確認して働きやすい環境を整える様に努めている。	普段の会話やミーティング等で、意見や要望を聞くようにしています。外出やレクリエーションの充実などのアイデアを取り入れています。自己評価表から、職員の興味や研修会参加への希望を汲みとり、積極的に外部研修への参加を促すようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護初任者研修や実務者研修の受講料、介護福祉士受験費用の一部を事業所が負担し、資格取得へのサポートでやりがいや向上心を持って働ける職場環境を整えている。個々の状況に応じて労働時間を調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日頃より職員にあった研修会への参加の機会を持っている。ホーム内研修も行い職員のスキルアップに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	他事業所とは勉強会や会議を通じてネットワーク作りをし、情報提供や情報共有しサービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談では職員も一緒に訪問し、本人が困っていることや不安なことを把握している。職員間で情報を共有し、入居後にも利用者へ寄り添い良好な関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面接時には不安なことや要望を確認し、出来るだけ要望に沿えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望はその都度聞き、その時に必要な支援をする様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることは一緒に行い、利用者と支え合う環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係を大事にしなが、ご家族が面会にきた時には最近の様子を伝えたりとゆっくり話をする機会を持っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室への外出、信仰の集会への参加など友人との外出も継続しており、馴染みの人との関係が途切れない様に努めている。	馴染みの美容室への訪問や、家族との外食などの支援を行い、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めています。定期的に知人と外出したり、携帯電話のメールの支援など、利用者に合わせて行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同で出来ることを役割分担し、お互いが支え合う関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてもこれまでの関係性を大切にし、必要に応じて相談など支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の対話を大切に、思いやりや希望をくみ取る様に心がけている。困難な場合は、出来る限り本人本位に過ごせる様に検討を行っている。	日々の支援の中で、思いや意向を汲みとるように努めています。把握が困難な場合は、表情などから心地よいことや喜んでくれる場面をとらえ、利用者本意に過ごせるように検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に意向や生活歴等を確認し、落ち着いて生活が出来る環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やカンファレンス等で職員間で情報の共有に努め、日々のケアに活かせる様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く生活するため、本人や家族の意向を確認している。カンファレンスで状態を確認しながら意見を出し合い、介護計画書を作成している。	介護計画は6カ月ごとに見直しています。趣味や習慣の継続など、利用者の意欲向上に結び付く支援を盛り込んでいます。毎月のカンファレンスで利用者の状況を確認し、職員の気付きなどから、利用者が必要な部分の支援を見極め、持てる力を発揮できるようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを介護記録や申し送りで共有している。実践した結果や状態を確認しながら、意見を出し合い介護計画書を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望やその時の状況に応じて柔軟に対応出来る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店街の夏まつりには七夕飾りを作り、夏祭りに参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人や家族の意向を大切にしている。24時間対応の医療機関による月2回の往診と、週1回の訪問看護を受けている。その他の受診は職員が同行し経過や状況を伝えている。	往診を依頼している利用者が多数となっています。他にも利用者の意向による専門医等の受診時には管理者が同行し、経過や状況を伝えています。訪問看護師から、利用者の疾病に合わせたケアや褥瘡予防などの助言を受けています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師が週1回訪問に来ている。看護師に相談しながら健康管理や医療的な支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も適宜面会をしながら、主治医、看護師、医療相談員、家族からも情報を頂きどの程度で受け入れが可能かも伝え、早期退院が出来る様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した時には、医師も交えて今後の対応など家族と十分に話し合い、意向に沿って支援出来る様に努めている。看取りの指針やマニュアルの整備、研修の参加で知識と技術の向上に努めている。	事業所での看取りについて家族に伝え、一緒に支えていくという方向性を共有し、支援に当たっていません。2年ほど最期まで支援を行ったケースがありませんが、重度化への対応を含め、介護技術の向上や、マニュアルの整備などを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備や救急救命の講習に参加し、職員全員が実践出来る様に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定も含めて、年2回の避難訓練を実施している。消防署からも避難方法の助言を受けている。訓練には町内会の方も参加頂いている。	地域住民も参加し、年2回、それぞれ夜間、日中帯を想定した火災避難訓練を行っています。職員は全員年1回以上参加し、SNSを活用した緊急連絡訓練も行っています。災害時の備蓄については、検討をすすめています。	系列のグループホームや地域、家族との連携を行っていますが、より詳細な想定を行っていくことが大切です。災害が長期化した場合や家族との連絡方法など、事前にマニュアル化し職員が誰でも対応できるよう取り組んでいくことを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	外部研修への参加、内部研修には外部講師を招いている。自分の支援が配慮出来るかを確認し、利用者本位や尊厳の保持を心がけた対応に努めている。	利用者の気持ちを大切に、誇りやプライバシーに配慮した対応に努めています。羞恥心への配慮だけでなく、カンファレンスで職員がいろいろな感じ方や価値観があることを共有し、利用者の立場で考えるようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を聞ける環境作りに努め、要望を含めて自己決定を尊重した関わりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	その日の状況や希望に合わせて生活出来る様、またその時に出来ることはゆっくり本人のペースに合わせて行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に馴染みの美容室への外出や、訪問理容を利用している。職員と一緒に服を選び、季節にあったオシャレが楽しめる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理や盛り付けをしたり、後片づけのお手伝い等役割を持ってもらっている。	利用者は、調理の下ごしらえ、盛り付け、後片付け、調理の仕方や味付け指導など、得意なことを行っています。行事食や誕生日には、メニューのリクエストに応じています。献立は、飽きのこないように工夫をし、栄養士のチェックを受けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表を活用し、それぞれ残さず食べられる量で、嫌いな食品も把握して提供している。水分も必要量が摂れるようにチェックしている。摂取能力に応じた形態を適宜見直しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。口腔ケアの研修を植えたり、歯科医と連携し利用者毎の状況に応じたブラシやマウスウォッシュ、保湿液を使用し適切な口腔ケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツやパットの使用を減らせる様に、適宜誘導時間の見直しをしている。ケカンファレンスで実施状況や振り返りも行っている。	排泄リズムを把握し、適切に誘導することで、おむつから布下着になり、自信につながった利用者もいます。利用者の尿意や歩行状態、排泄のタイミングを把握し、トイレでの排泄に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な水分が摂れ、食物繊維の多い食材、乳製品やオリゴ糖を摂り、出来るだけ下剤に頼らない様にしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	浴室は毎日使用出来る様にし、利用者の希望や体調に合わせて曜日や時間が変更出来る様にしている。	入浴は、利用者の希望や体調に合わせて行っており、曜日を限定していません。入浴に不安がある場合などは、家族と一緒に介助を行うなど、利用者の思いに添えるようにしています。同性介助の希望にも対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整える様にしている。本人の希望や体調を考慮し、居室やソファで休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録や薬剤表は個別にファイルしている。処方が変わった時には、申し送り等で情報を共有している。状態の変化等適宜医療機関との連携が取れる様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なことや好きなことを生活の中で把握し、その人に合ったり皆で楽しめることを見つけて出している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望い出来るだけ沿えるように努め、家族や友人にも協力頂いている。外出行事は入居者の希望も取り入れながら企画している。	毎月、地域交流カフェに参加したり、買い物や外食などに出掛けています。地域でのイベントの紹介をし、希望に応じて出掛けるなど、提案も行っています。気候の良い時期は、散歩や事業所のカーポートで食事やお茶を楽しむなど、外気にふれる機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて買い物に行き、自分で支払いが出来る様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で自由に家族や友人に連絡をしたり、電話をつないでいる。手紙等のやり取りが出来る様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは季節感のあるものや、その時期の行事の物を取り入れている。利用者の作品や写真も飾っている。ソファーに座ってテレビを見たり、音楽を聞いたり、居心地良く過ごせる様に工夫している。	生活感や季節感のあるものを配置し、利用者にとって居心地のよい場所になるように努めています。利用者の作品や写真を飾るなど、自分が住んでいる家だという意識を高めてもらうようにしています。ユニット間の様子がわかる間取りになっており、利用者が自由に行き来し、交流しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前に喫煙スペースを設けている。テーブルやソファーの位置も検討し、気の合う方の会話を楽しくするようにしている。一人で過ごしたい時には、遠慮なく居室で過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ馴染みの家具や使い慣れたものを持参して頂いている。家族の写真や手作りの作品を飾ったりと、本人の好みに合わせる様にして、居心地良く過ごせる様にしている。	使い慣れた馴染みの家具を持参してもらっています。家族の写真や手作りの作品を飾るなど、利用者がその人らしく、居心地よく暮らせるように配慮しています。また、動線上に物を置かないなど、危険がないよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりを設置したり、わかりやすい様に表示している。安全に過ごせる様に必要な物を準備し、家具の配置や環境整備に努めている。		